

平成 29 年度 学び舎ひまわり 第 4 講 開催報告

日 時 平成 29 年 11 月 12 日 (日) 12 時 45 分～15 時 45 分
会 場 野庭地区センター (ふるさとのば福祉のつどい 会場)、なごみのば
受講生 32 名 (地域 21 名 区役所 9 名 ケアプラザ 2 名)

プログラム内容

第 4 講では、野庭団地地区社会福祉協議会共催の「ふるさとのば福祉のつどい」で、連合や社協など、地域が一丸となって取り組む自慢のイベントを見学しました。



【向後連合会長、林地区社協会長のお話】

イベント開催の経緯

「ふるさとのば福祉のつどい」は、今年で 31 回目。

最初はシルバークラブ連合会のチャリティイベントでした。地域の集会所で開催し、内容は地域の方の踊りや歌などを披露する場でした。

ちょうど地区センターが出来たタイミングで内容の見直しを検討。自治会や地区社協、委嘱団体などが一堂に会して、活動の PR をする場に出来るようにしたほか、地域の方の作品展示や小中学生の発表の場を設けることで、人がたくさん集まるよう工夫しました。

キーワードは「つながりづくり」

地域では各種委嘱団体が活発に活動をしています。それぞれ一生懸命活動をしていても、団体間のつながりがあまりありませんでした。

そこで、各種団体が集まるように「ふるさとのば福祉の集い」の実行委員会を作りました。毎年各種団体の総会後の 5 月に各種団体を呼び、第 1 回実行委員会を開催するようにしました。実行委員のメンバーでもある野庭団地の自治会長は毎年変わる方も多いので、その方たちへの説明も兼ねています。反省会も含め全部で 5 回開催、その中でだんだん顔が繋がってきます。

また、自治会長さんには展示作品の受付窓口にもなっていたいただき、当事者意識を持ってもらう機会としています。



学校との関係

複数の学校がこのイベントには参加をしています。各種団体がつながっていても、実は学校との連携があまなないという話になり、声かけを行いました。

作品展示やステージでの合唱などの披露の他に、3年から丸山台中学校の生徒さんが似顔絵をはじめ、昨年からは野庭中学校の生徒さんも似顔絵ブースに参加してくれるようになりました。



2校で午前と午後に分かれて活動するのですが、違う学校が同じブースで活動するのはなかなか珍しいと思います。

みんなで少しずつ関わりをもちながら大きなイベントを作り上げるのは、とてもいい方法だと考えています。

課題

高齢化はこの地区でも問題です。運営メンバーが高齢化し、新しいことを始めるのは難しい状況になっています。そんな中、委嘱委員さんには定年がありそこでメンバーは必然的に入れ替わるので、メンバーが交代してもその団体の中でしっかり引き継ぎ、活動していってほしいと思っています。

また、自治会長が1年交代のところは、シルバークラブのメンバーが活躍し、うまく地域の中で引継ぎがされています。

1人の人、1つの団体が全てをやろうとするとうまくいかないことが多くありますが、野庭団地ではこれからもそれぞれが関わりを持ちながら、みんなで地域づくりに取り組んでいこうと思っています。

担い手の問題

小中学校の児童生徒が参加すると親世代が集まりますが、子どもの出番が終わると帰ってしまうような状況なので、継続的にかかわってもらうことは難しいです。

しかし、今なごみのば（地域の居場所スペース）を未就園児の親が何人かで利用してくれていますが、その中の1人は引っ越してきたばかりで、地域を知るために何か手立てはないかと考えたことがきっかけとなり、こういったところに出てくるようになったとのこと。

そういう方を見つけ、なんとかつないでいきたいと考えています。



学びのまとめ 集計結果

回答数 29件 回収率 90.6%

満足	やや満足	やや不満	不満
19	8	2	0
65.6%	27.6%	6.8%	0.0%

受講生の声

- ◎それぞれの組織をつなげることの重要性に同感。野庭団地地区のエネルギーと行動力がすごいと思った。
- ◎参加者みんなが楽しんでいる様子がよかった。20～50歳くらいの間層と地域をどうつなぐかが課題だと感じた。
- ◎31年間も継続されていることにに対し感心させられる。横のつながりを大切にされていることは参考にさせていただきたい。
- ◎小学校、中学校との交流がよくできている。当町内会も小中学生にイベントへの参加を呼びかけたい。
- ◎規模感、活況感、充実感など圧倒的な内容。歴史がなせる業だとすれば、簡単にはまねできないが役員の皆さんのリーダーシップによるところが小さくないのであれば、少しずつでも追いつけるように努力することは出来ると思う。
- ◎社協の活動や自治会活動において老人会の手助けが大いに役立っている様子が感じられた。
- ◎何かを始めるにあたりリーダーの存在が絶対条件。始めたいと思ったら少数でも始めたいと思った。
- ◎作品をきっかけに地域のつながりや交流を広げるというアイデアが素晴らしいと思った。
- ◎地域活動に中学生が参加できる場があり、またそれが会場の中でもにぎわっていたこと。
- ◎各単会と連合とがうまく連携して会場づくり、展示を行い、それぞれの存在がきちんと目立っていたことが印象的だった。
- ◎行動を長く続けていくことについての工夫や取組を、イベントを見ながら話を聞くことが出来て、リアルな空気もわかり参考になった。
- ◎福祉のつどいというタイトルから福祉分野だけの催しかと思いましたが、文化芸術、福祉、健康づくりなどが一体となった取組に感心させられた。
- ◎市営住宅と供給公社、この2者でどのように協力しあってイベント開催しているのかもっと聞きたかった。
- ◎なぜ今回はこの行事だったのか、他の地区と何が違って野庭選ばれたのかよくわからない。最初にこの地区のココをよく見てくださいと教えていただければありがたい。

